

目次

大気汚染防止推進月間の事業報告	2
第1回公害健康被害補償予防業務評議員会について	5
平成15年度調査研究成果集について	5
イベント等の開催報告および開催予定	6
自治体の取り組みの紹介（環境保健施策）	9
モデル事業の紹介	11
新刊パンフレットのご案内	12

平成16年度大気汚染防止推進月間ポスター受賞作品



環境大臣賞

「私も空もうれしいよ」

鎌倉 麻衣さん
徳島県立
徳島商業高等学校2年



機構理事長賞

「おいしい空気を守ろう
深呼吸したくなる空」

石川 瑞紀さん
山形県鶴岡市立
鶴岡第三中学校3年



入選作

「青い空にやさしい走り」

西川 俊之さん
岡山県立
高梁工業高等学校3年



入選作

「アイドリングSTOP」

宮川 治誉さん
石川県金沢市立
森本中学校3年

大気汚染防止推進月間の事業報告

毎年、環境再生保全機構では環境省と全国都道府県との協力のもとに、都市における大気汚染濃度が一年のうちで高くなる12月の一ヶ月間を大気汚染防止推進月間とし、主に自動車利用者（荷主、運転者等）やビル所有者を対象とする各種啓発活動を実施して、窒素酸化物や浮遊粒子状物質等の排出低減を広く呼びかけています。

大気汚染物質排出量の低減及び国民各層の大気保全意識の高揚を図るため、以下のキャンペーンを行ないました。

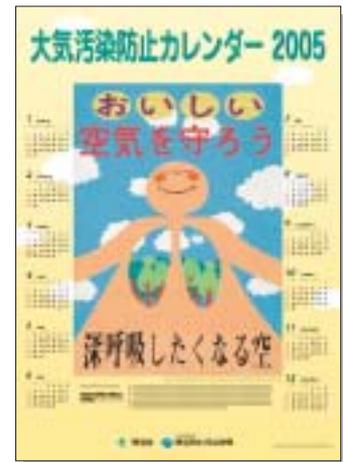
ポスターの作成及び掲出

青い空の大切さや、一人一人がやるべきことなどを広く呼びかけるためのポスター（※）を10万部及び2005年版カレンダーを2万部作成し、全国の都道府県等に配付し、掲出の協力をお願いしました。

※ポスター等の図案については、6月下旬から公募を行い、9月15日までに応募のあった5,569点（昨年度は2,141点）の中から、漫画家の安井英彦氏、音楽家の湯川れい子氏、女優の大山のぶ代氏らを立てて審査を行い、環境大臣賞や環境再生保全機構理事長賞など14点の入賞作品を10月20日に決定しました。主な受賞作品はポスター図案などに活用するなど広く一般に周知を図っています。



環境大臣賞を活用したポスター



機構理事長賞を活用したカレンダー

広告

大気汚染防止の大切さを呼びかけるため、環境大臣及びタレントの乙葉さんからのメッセージなどを交え、以下のような広告を行いました。

* 新聞広告 *

12月1日（水）付け朝日新聞の朝刊1ページに新聞広告を掲載したほか、12月18日（土）には公害健康被害予防事業対象地域を中心に折り込み広告を行いました。



新聞広告



新聞折込広告

雑誌広告

週刊文春(12月9日号)、週刊TVガイド(12月1日号)に広告を掲載しました。



雑誌広告

ラッピング車

環境省環境管理局長車(天然ガス自動車)に環境大臣賞ポスター図柄をラッピングし、広報活動を行いました。



ラッピングされた局長車に乗車する、環境大臣賞を受賞された鎌倉麻衣さん(徳島県立徳島商業高等学校2年)

中吊り広告

自動車NOx・PM法適用対策地域を中心に、公共交通機関(JR・地下鉄)を活用し、大気汚染防止推進月間ポスターを掲出(電車中吊り広告)しました。

①掲出した公共交通機関

J R 『東日本旅客鉄道(株)、東海旅客鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)』、
地下鉄 『東京地下鉄(株)、横浜市営地下鉄、名古屋市営地下鉄、大阪市営地下鉄、神戸市営地下鉄』

②掲出時期

J R : 12月10日(金)～24日(金)のうち、
2日間掲出(東京・大阪地区)
3日間掲出(名古屋地区)
地下鉄 : 12月10日(金)～24日(金)のうち、
2日間掲出(神戸市営地下鉄を除いた地下鉄)
3日間掲出(神戸市営地下鉄)

ポスター図案入賞者表彰

平成16年度大気汚染防止推進月間のポスター図案に係る公募上位入賞者と大気環境保全活動功労者に対し、11月29日（月）午後3時より東京・虎ノ門パストラル鳳凰西の間において表彰式を行いました。



受賞者と記念撮影



受賞作品の展示

エコドライブコンテスト表彰

「エコドライブコンテスト」は、今回初めての取り組みとして、急発進や急加速をしないなど環境にやさしい運転（エコドライブ）についての活動を全国に普及させることを目的として、各事業所で行っているエコドライブに関する取り組み内容等を審査し、優秀な事業所を表彰するためのコンテストを実施しました。その結果が、「大気汚染防止推進月間」表彰式で表彰されました。

本コンテストには自治体（札幌市、東京都、川崎市、名古屋市、北九州市）の協力により、参加事業所数285、参加車両台数19,034台の応募がありました。その内容を各地域毎に評価した結果を踏まえ、11月15日（月）の最終選考会（委員長 大聖泰弘早稲田大学工学部教授）で最優秀賞1事業所、優秀賞4事業所及び入賞10事業所を決定しました。

最優秀賞を受賞された東京都の西多摩運送株式会社島忠事業部東村山配送センターでは、手作りのエコドラ



受賞者と環境大臣、機構理事長等との記念撮影

イブマニュアルビデオやビジュアル化された資料を数多く作成すると共に、乗務員の意見を大きく反映するミーティングに重点をおいた活動が、燃費向上や事故発生率を半減させたことが評価されました。

その他の受賞事業所の評価内容はホームページで紹介しています。詳細はこちらへ→ http://www.erca.go.jp/taiki/suisin/pdf/sub_03_01.pdf

第1回公害健康被害補償予防業務評議員会について

機構では、理事長の諮問に応じ、公害健康被害補償業務及び公害健康被害予防業務に関する重要事項について審議していただくため、公害健康被害補償予防業務評議員会を設置し、その第1回の会合が平成16年12月9日（木）に東京都千代田区経団連会館「蔵王の間」において開かれました。

今回の評議員会においては、ばい煙発生施設等を設置している者が加入している団体の役員等と業務の適正な運営に必要な学識経験を有するものから委嘱された評議員に対し、機構から平成16年度における各業務の予算、実施状況等について説明を行い、審議をしていただきました。



平成15年度調査研究成果集について

このたび、平成15年度に実施された調査研究事業の成果を、以下の2つの成果集に取りまとめました。

平成15年度大気汚染による健康影響に関する総合的研究成果集

「大気汚染による健康影響に関する総合的研究」は、ぜん息等の発症の予防、悪化の防止及び患者の早期の健康回復を図ること、また、そのために行う各種事業の効果的運営に資することなどを目的として、主に医学専門家からなる研究班を組織し、3年計画で実施しています。

第6期（平成15年度～17年度）は、ぜん息等のアレルギー疾患の増加傾向が指摘されている状況に鑑み、ぜん息等の発症・増悪の予防、保健指導の根拠となる知見の確立等に力点を置いた6課題についての調査研究を実施したところです。

本成果集は、第6期の初年度にあたる平成15年度に各研究班で実施された成果をとりまとめたものです。



平成15年度環境改善に関する調査研究成果集

本成果集は、幹線道路沿道等の局地的な高濃度大気汚染の改善を図るために実施されているディーゼル排出粒子等削減のための局地汚染対策に関する調査をはじめとする4課題について、平成15年度に各研究班で実施された成果を取りまとめたものです。



イベント等の開催報告及び

開催報告



低公害車フェア

平成16年6月に横浜市で、エコカーワールドを開催したほか、8月から11月にかけて、次の予防事業対象地域の地方自治体との共催で低公害車フェアが行われました。関係団体等のご協力を得て、また最近のエコカーブームにのって、多くの方に来場していただきました。ありがとうございました。



大阪市／低公害車フェア2004 inおおさか



名古屋市／低公害車フェア なごや 2004

	開催日	会場	のべ来場者数
低公害車学習・体験フェア2004	8月26日(木)～27日(金)	三重県環境学習センター	4,400人
低公害車フェア2004 inおおさか	9月17日(金)～19日(日)	大阪市アジア太平洋トレードセンター	22,500人
低公害車フェア なごや2004	9月19日(日)	久屋大通公園	50,000人
低公害車フェア in KOBE2004	10月16日(土)～17日(日)	神戸市しあわせの村	9,000人
北九州エコカーフェア2004	11月6日(土)～7日(日)	北九州市西日本総合展示場	40,000人

ぜん息児水泳記録会(第1回)

9月23日(木)に関西地区(大阪市／大阪プール)で、10月16日(土)に関東地区(東京・江東区／東京辰巳国際水泳場)で、それぞれ平成16年度「ぜん息児水泳記録会」を開催いたしました。



泳力検定の様子

本記録会は、平成5年度から実施してきた「ぜん息児水泳フェスティバル」を、平成16年度から、年間を通した水泳訓練の足がかりと

していただくため、目標設定が可能で人気もある泳力検定を含めたタイムレースに重点を置いた内容とし、名称も「ぜん息児水泳記録会」と改め、実施いたしました。

多くの子どもたちが参加し(関西地区:131名、関東地区:191名)、自分の記録が電光掲示板に表示される国際級の



奥村選手(中央)と記念撮影

立派なプールで、日ごろ各地域の水泳訓練教室で鍛えた泳力を披露しました。

また、招待水泳選手(関西地区:アテネオリンピック銅メダリストの奥村幸大選手、関東地区:同オリンピック背泳ぎ代表稲田法子選手)と一緒に泳いだり、模範水泳を間近に見学したり、記念撮影や銅メダルにも触れさせてもらったり、子どもたちにとって夢のような1日となりました。



稲田選手の模範水泳を見ている子供たち

子どもたちからは「同じぜん息という病気をもつ友だちが増えてよかった。」、「オリンピック出場選手に会えたばかりでなく、一緒に泳ぐことができうれしかった。」、「オリンピック出場選手が子どもの頃はぜん息児だった事を知り、とても勇気付けられた。」等の声が寄せられました。

開催予定

開
催
報
告

ぜん息予防講演会（一般の方々を対象）

機構では、地域住民の方々に、ぜん息の予防等に関する知識の普及を図ることを目的として、一般の方々を対象に、専門家によるぜん息やアレルギーに関する講演会を関係自治体等と協力して開催しています。

平成16年度は、これまでのところ11月に日本小児アレルギー学会とのタイアップによる市民公開講座を東京都千代田区で行いました。

→今後の開催につきましては次ページ「開催予定」をご覧ください。



左から海老澤先生、永倉先生、松井先生

11月26日（金）、東京都千代田区のホテル ルポール麹町にて、日本小児アレルギー学会・東京小児科医会・財団法人日本アレルギー協会との共催で、「小児アレルギーの最新情報と治療～正しく知ろう子どものぜん息・食物アレルギー～」をテーマに市民公開講座を開催いたしました。海老澤元宏先生（独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター アレルギー性疾患研究

部長）には「正しく知ろう 子どもの食物アレルギー」というテーマで、永倉俊和先生（用賀アレルギークリニック院長）には、「正しく知ろう 子どものぜん息」というテーマでご講演をいただいた後、松井猛彦先生（第41回日本小児アレルギー学会会長・東京都立荏原病院小児科部長）のコーディネートによる、オープンディスカッションを行いました。



講演に聞き入る参加者

当日は、アレルギーをもつお子さんの保護者をはじめ、約250名の方がお越しになり、熱心に耳を傾けておられました。

オープンディスカッションでは、あらかじめ寄せられていた質問と当日会場からの質問に対して講演者が回答し、松井先生に取りまとめをしていただきました。

会の終了後も、会場内やロビーで講演者に質問する姿が見られ、今回のテーマの関心の高さがうかがえました。

ぜん息予防講習会（保健師対象）

ぜん息児の快適な学校生活等を支援するため、小中学校および地域においてぜん息児等の保健指導に携わる方を対象に、講習会を実施しています。

右下は平成16年12月22日（水）に横浜市研修センターで開催したぜん息予防講習会の様子です。

横浜市の各区保健福祉センター等に従事する保健師等を対象に、「増えている大人のぜん息・COPD（慢性閉塞性肺疾患）」と題し、横浜市立大学大学院医学研究科病態免疫制御内科学の金子猛先生にお話をうかがいました。

特にCOPDでは、何年もかかってゆっくり呼吸機能が低下するため、気が付いた時は相当に進んだ状態ということが多く、診断の決め手となるスパイロ検査が早期発見と予防に重要であることを、参加者に実際に体験していただきました。

講師からも早期発見の重要性と、保健指導の場においてどのように生かすことが地域住民の健康予防に役立つか、質問等もまじえて丁寧に説明がなされていました。



**開 催
報 告**



第38回東京モーターショー2004～はたらくるまと福祉車両～

11月3日(水・祝)～7日(日)までの5日間、千葉・幕張メッセで第38回東京モーターショーが開催されました。また11月6日(土)には環境省と共催で「環境にやさしい貨物輸送をめざして」をテーマにシンポジウムを開催いたしました。

ブースでは機構が開発したCO₂の排出量などの測定を可能としたエコドライブ診断装置の展示



エコドライブ診断装置の
デモンストレーション

を行い、本装置の特徴を説明したパンフレット、企業などがエコドライブに取り組んだ場合のメリットなどを解説したパンフレットなどを掲出しました。

期間中は、一般の方や企業の方等、のべ25万人の方が東京モーターショーに来場され、機構ブー

スも多くの方にご覧いただきました。特にエコドライブ診断装置の前にはデモンストレーションを熱心に見入っている方もたくさんいらっしゃいました。

シンポジウムではトラック輸送に伴うCO₂と排出ガスの低減について、自動車技術やモーダルシフトなど物流システムを支えるハー



パネルディスカッションの様子

ドとソフトを総合的にとりあげて、自動車メーカー、物流企業、荷主企業といったメインプレイヤーが目指すべき方向についてシンポジウムを行いました。

当日は約160名の方が参加いただき、一般の方のほかに企業の方や、地方自治体の方が、熱心に耳を傾けていました。

基調講演

大聖泰弘 (早稲田大学理工学部教授)
「環境に優しい貨物輸送をめざして～モーダルシフト等によるトラック輸送の環境負荷低減～」

パネリスト

大聖泰弘 (早稲田大学理工学部教授)
宮澤幸成 (日本貨物鉄道(株)取締役 運輸車両部長)
遠藤 真 (日野自動車(株)執行役員)
芝田稔子 ((株)湯浅コンサルティング コンサルタント)
山口秀和 ((株)セブン・イレブン・ジャパン 環境推進部総括マネージャー)
清水康弘 (環境省地球温暖化対策課長)



**開 催
予 定**

● ぜん息の予防等に関する講演会 (一般の方々を対象)

テーマ・講師	開催予定日	会場	備考
「子どものアレルギーとぜん息 ～正しく知ろう予防と治療～」 菅井 和子 先生 (藤沢市民病院小児科)	3月3日(木)	藤沢市民会館 小ホール	神奈川県と共催
「さわやかライフのためのぜんそくコントロール」 末廣 豊 先生 (大阪府済生会中津病院小児科部長、免疫・アレルギー部長)	3月5日(土)	神戸市勤労会館	神戸市と共催

*詳細は機構ホームページで紹介しています。(URL:<http://www.erca.go.jp/asthma2/event/lecture.html>) でお知らせいたします。

自治体の取り組みの紹介（環境保健施策）

公害健康被害予防事業対象自治体では、ぜん息等の発症の予防、健康の回復、保持及び増進を図るため、健康相談事業、健康診査事業、機能訓練事業を行っています。これらをまとめて「ソフト3事業」と呼び、環境再生保全機構はこれら3事業を行う地方公共団体に対し、助成を行っています。

ここでは各自治体で実施している機能訓練事業のうち、水泳教室、音楽教室、ぜん息キャンプ事業について紹介します。

水泳教室

15歳未満のぜん息児童を対象に、心身の鍛練などのために医師の健康管理のもと、専門の指導員により、水泳訓練を行っています。

平成15年度の各自治体の開催状況は40の自治体で、のべ33,283人のぜん息児童が参加しました。

■江戸川区水泳教室

江戸川区で行われている水泳教室を紹介します。



水泳教室の様子

左は12月16日（木）に江戸川区スポーツセンターで行われた水泳教室の様子です。江戸川区の水泳教室は予防事業制度発足以前の昭和61年より実施しており、「風の子教室」と称して親しまれ、平成15年度末までにのべ918日の実施、参加者数ものべ60,621人に達しています。平成16年度からは、通年実施の会場を1施設から2施設に増やし、それぞれ週1回、70名と130名の定員で水泳教室実施の充実を図っています。この江戸川スポーツセンターで行われている水泳教室では、毎回定員130名の70～80%の出席率とのことでした。今回の参加人数は101人で、当日は北風が強い中、室内プールで元気一杯に泳ぐ姿が見られました。

参加したぜん息児童のお母さんにこの水泳教室について話をうかがったところ、「最初は水に顔がつけられ

なかったのに今ではクロールで泳げるようになりました。学校の授業とは違って、指導の方法も先生の数も違う事に驚いています。また、プールに入る前の検診を行っているので、安心して通わせています。今後も参加させたい。」との声を頂きました。

指導員をされている元オリンピックメダリストの竹宇治（旧姓 田中）聡子先生は「継続する事が大事です。継続する事によって、自分で体調管理に気をつかうようになります。子ども達が自分で風邪などをひかないために努力することによって、自立心が芽生えてきます。私は子ども達だけではなく、ご両親や指導員にも、なぜ水泳教室に通わせているのかをしっかりと認識して欲しいと思っています。子ども、親、指導者の三者のコミュニケーションが大切です」と力説していました。

指導員をされている元オリンピックメダリストの竹宇治（旧姓 田中）聡子先生は「継続する事が大事です。継続する事によって、自分で体調管理に気をつかうようになります。子ども達が自分で風邪などをひかないために努力することによって、自立心が芽生えてきます。私は子ども達だけではなく、ご両親や指導員にも、なぜ水泳教室に通わせているのかをしっかりと認識して欲しいと思っています。子ども、親、指導者の三者のコミュニケーションが大切です」と力説していました。



指導を受けるぜん息児童たち
（左が指導員の竹宇治先生）

江戸川区公害補償係より

今後も水泳教室の運営を通じて、参加する子供たちの一人でも多くが、教室への参加を楽しみにし、継続していくことにより「子供たち自身によるぜん息等の自己管理」ができるよう、さらに工夫を加えて運営してまいります。

また、保健福祉事業の「ぜん息講演会」・「健康相談」等、他事業とも関係を図り、家族への知識普及・啓発を行い、最大の効果があがるように研究し、実施いたしてまいります。

音楽教室



音楽教室は、専門の指導員により、吹奏楽器等を用いて腹式呼吸法等を習得するとともに心身の安定を図ることを目的に実施しています。腹式呼吸はぜん息発作時の息苦しさを軽くする方法として知られています。

平成15年度の開催状況は12の自治体で、のべ613人のぜん息児童が参加しました。

■名古屋市音楽教室

名古屋市で行われている音楽教室を紹介します。



音楽教室の様子

左は12月22日(水)に名古屋市音楽プラザで行われた音楽教室の様子です。当日の参加者は12名で、リコーダーやチューブを使って腹式呼吸の練習を行っていました。名古屋市では昭和63年の予防事業制度発足時より音楽教室を行っており、平成16年度は夏期に6回、冬期に2回実施しました。夏・冬期に1回ずつ医師によるミニ講演を開催し、保護者の方に参加して頂いています。夏期、冬期の最終日には参加者や指導された先生によるミニコンサートを行い、その成果を保護者の方に発表しています。

市内広報誌に音楽教室の参加者がトランペットを吹いている場面が掲載され、参加希望者が増えました。

参加者の保護者の方からは「一昨年まで、ただ受け

身だった本人が、自分の体質を自覚し、予防や改善に自ら努力するようになり、大変感謝しております。親が教わってやらせるのではなく、自分で教わり、自分で行うことに意義を感じました。」との意見をいただきました。

指導される先生は声楽家の森やよい先生です。教室の開始当初より担当をお願いしています。先生は「この音楽教室では腹式呼吸の練習を行うことによって、音楽を楽しむということを忘れないでほしい」とおっしゃっていました。



講演の様子

市ではぜん息児童の増加に伴い、応募状況に応じて、定員の増員や低学年クラスと高学年クラスの2クラスで実施する等の検討も、今後考えています。来年度は会場の都合により1クラスで開催する予定とのことです。

ぜん息キャンプ



15歳未満のぜん息児童を対象に、医師の健康管理のもと、専門の指導員により療養生活上の指導等を行うことにより、当該児童の健康の回復、保持及び増進を図ることを目的としています。

平成15年度、ぜん息キャンプは35自治体で行われ、のべ8,788人のぜん息児童が参加しました。

■倉敷市ぜん息キャンプ

倉敷市で行われているぜん息キャンプ事業を紹介します。

右は倉敷市が平成16年8月2日(月)～8月6日(金)まで行ったキャンプ事業の様子です。

本年度は岡山県川上郡にて、15歳未満のぜん息児童21人が参加して行われました。

水泳などの体力増進の他にぜん息の勉強などのカリキュラムが組み、市内の小学校教諭の代表2名が中心になって児童たちを指導していました。

このぜん息キャンプを通して、自己管理を学び、参加者同士がお互いを知り、ぜん息に負けない強い心を持つて欲しいと思います。

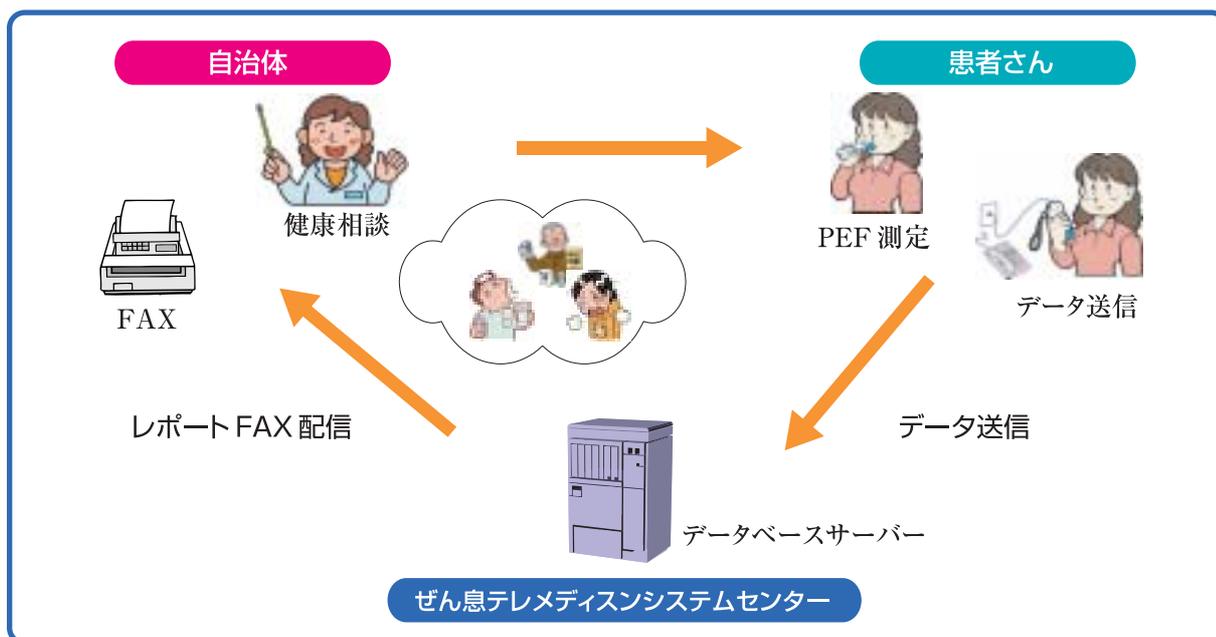


ぜん息体操の様子

モデル事業の紹介

ぜん息テレメディスンシステムを活用した 在宅自己管理支援事業に関するモデル調査

環境再生保全機構では、ぜん息テレメディスンシステム(注1)を活用したぜん息患者のピークフローのモニタリング情報に基づく自治体保健師の保健指導による患者の自己管理(注2)支援の効果及び健康相談事業への展開について調査検討することを目的とするモデル調査を、平成16年度より開始しました。



本モデル調査における相談・指導の手法は、患者さんのピークフローの変動を記録・把握する方法としてぜん息テレメディスンシステムを活用し、自治体の保健指導従事者が、医師の指導に基づく患者さんの自己管理を支援しようとするもので、患者さんが在宅で継続的なフォローを受けることが可能となる点が特徴です。

相談会場に出向く時間を確保できない患者さんにも、相談・指導のサービスを提供することができます。

相談会場における集団指導や個別指導の手法等と併せ、ぜん息患者さんの安定した健康管理に資することにつながるよう検討を進めていく予定です。

注1) ぜん息テレメディスンシステムとは？

通信機能付き電子式ピークフローメーターで測定したピークフロー値が電話回線を使用してテレメディスンセンターへ送信されると、テレメディスンセンターのデータベースが自動受信し、蓄積しているピークフローのモニタリングデータが30日の推移を把握できるようグラフ化され、指定先へファックス配信される仕組みです。

注2) 自己管理の重要性

喘息予防・管理ガイドラインにおいては、患者の自己管理の重要性について、次のように述べられています。

「ぜん息の治療・管理は、原則として外来診療を中心に行われる。したがって、診療日以外の自己管理により発作の予防、迅速かつ適切な処置が大切」であり、患者さん自身が、「重症度や増悪因子を評価することができるようにするため」、喘息日記記入と併せ、「ピークフローメーターを用いてのPEFによる客観的評価」が重要である。

新刊パンフレットのご案内



すこやかライフ No. 24 ～ぜん息＆慢性閉塞性肺疾患のための生活情報誌～

ぜん息、慢性閉塞性肺疾患の患者の方々に対し、ぜん息等の予防・回復に資するための情報提供を目的とした生活情報誌です。年2回発行しています。

特集	長引くせき、何が原因なの？
読者参加型コーナー	ぜん息日誌を長く続けるには
医療トピックス	抗アレルギー薬 ロイコトリエン受容体拮抗薬について知ろう
ぜん息児へのエール	オリンピック水泳選手 寺川 綾さん
情報コーナー	上手に活用していますか？ インターネットを使ったオンライン患者支援
現場レポート	姫路市における受診の実態から見た ぜん息患者の望ましい受診のあり方
読者のページ	読者Q&A



はたらくクルマのエコドライブガイド

自動車の排出ガスを減らすため、環境に配慮した運転「エコドライブ」を実践する事により、燃費向上、大気汚染・地球温暖化防止などに貢献ができます。

パンフレットでは主に商用車における「エコドライブ」の効果や具体的な実践内容を中心に紹介しています。



エコドライブ診断システム

このたび機構では「エコドライブ診断システム」を開発いたしました。この「エコドライブ診断システム」は自動車からのCO₂排出実態を把握し、それに基づく診断やアドバイスによって環境に配慮した運転方法「エコドライブ」を実践していただくためのシステムです。パンフレットではシステムの概要を紹介しています。



健康被害予防事業だより 第33号 2005年1月号
発行 独立行政法人環境再生保全機構 予防事業部管理課
〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミューザ川崎セントラルタワー8F
TEL : 044-520-9564 (ダイヤルイン)
FAX : 044-520-2134
E-mail : y-kanri@erca.go.jp

【パンフレット等のお問い合わせ先】
公害健康被害予防事業に関わる出版物等の入手またはビデオの貸し出しを希望される方は予防事業部事業課 (044-520-9567~9568) (ダイヤルイン) (土日祝日を除く平日9:00~18:00) までお問い合わせください。費用は無料です。
なお、当機構ホームページ (URL:<http://www.erca.go.jp>) からでも申し込めます。

次号 (No.34) は、2005年7月に発行予定です。